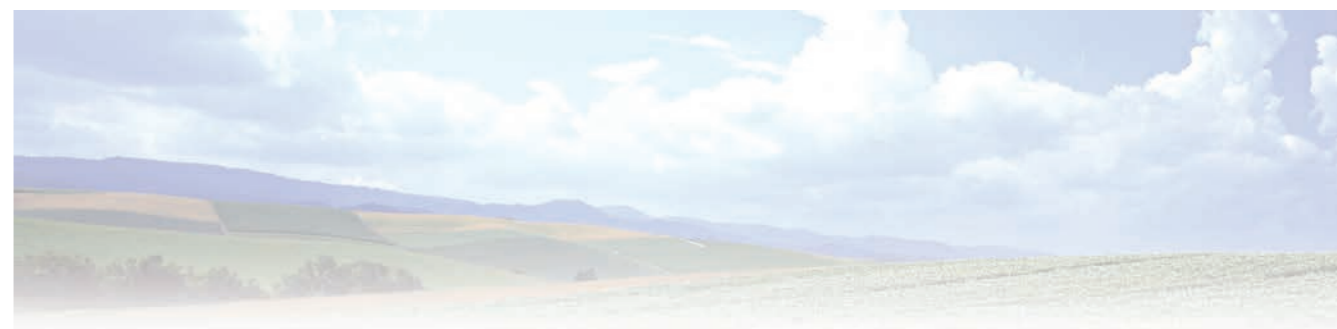


# SPパイプの効果確認試験



## 試験目的

SPパイプの効果確認試験

## 試験作物 及び品種

ビート育苗

## 試験資材 及び数量(規格)

SPパイプ(22×5) 16本

## 慣行資材

リブラントチューブ

## 栽培方法

播種日	3月10日	収穫日	10月20日 ※移植は5月13日
【栽植密度】	畝幅：69cm	株間：20cm	

## 資材使用期間

2月下旬～5月上旬

## 試験区面積

324㎡  
※9m×36m  
ハウス

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

- ・リブラントチューブに比べて、ビス止めをしなくて良い分、作業性は良かった。
- ・長さ調整のため、端部をカットするので、詰め物が無くなってしまふ。(水分などが入らないようテープで詰めた)。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

生育効果の向上を目指した資材ではないため、不明。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

- 【優位点】：・ビス止めしなくて済むので作業性が楽。  
・SPパイプの両サイドに詰め物がなされているため、水分の流入が防げる。
- 【問題点】：長さ調整のためSPパイプをカットすると、詰め物が無くなってしまふので、何かで塞がなくてはならない。

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

リブラントチューブは約5年に1回のペースで替えているが、水が溜まり持たないモノも多い。蛇行したリブラントチューブの底に水が溜まることが多く、その部分がよく破裂する。SPパイプについて、越冬後の水の溜まり具合を調査し、評価したいが、両サイドに詰め物がされているため問題ないと思われる。

## モニター感想

現行品のリブラントチューブは、地形に沿ってどうしても波打った設置になってしまひ、一定の場所に水が溜まってしまふ。その場所がさび付き・破裂等によって

破損してしまひ、交換期間が短くなってしまひていた。試験品は、メッキ加工による錆防止効果・パイプ端部穴が詰まっているため水が入りづらいというメリットから、慣行品よりも長く使用できる可能性が高い。試験品はビス止めをしなくて良いので、作業性も良好であった。

複数年確認の上で判断しなければならないが、年明けパイプの接続部を一部をはずして、水溜まりの状況を確認し、違いを見てみたい。

## JA担当者の感想(真狩資材拠点センター 山原センター長)

慣行品は、育苗ハウスには必要なものでさび付き・破裂等の理由で、部品の中でも交換回数が非常に多い。

試験品は慣行品に比べてメリットの大きい資材だが、単価が高いことがデメリットとして挙げられる。

今回の試験については長期的に確認しなければはっきりとした結果は出ないが、組合員の反応は非常に良い。

今後、資材の供給量が増え、資材コストが下がり、組合員に対して更なるメリットとなることを期待したい。

## 今後の使用について

継続して使用したい。  
複数年の確認が必要であるが、効果を実感し次第他のハウスへの利用も検討したい。